

日本語学習に影響する因子の抽出と分析

— 中国の大学生を対象として —

王 琪¹

1. はじめに

学生に最大限に学習成果を達成させるのは教員の責任でもあり、教育研究の課題でもある。日本語教育が盛んに行われている中国では、大学拡大政策を取り始めて以来、様々な問題が現われている。例えば、教師数と学生数の比率のアンバランス、従来のシラバスは学習者の要望や社会の日本語人材に対するニーズを満たせないことなどは、すぐに指摘できる。そのため、中国の各大学では、学習内容の更新やカリキュラムの調整、更に教育方針や授業法など様々な面において、改革の呼び声が高まる一方であり、教育現場に出てきた様々な問題の解決に取り組んでいる。中国の南開大学のカリキュラム改革、吉林大学のテキスト開発などはその代表的なものである。

筆者が勤めているハルピン師範大学には14名の日本語教師（2004年5月現在）がおり、学生数は4学年合わせて約340名、一つのクラスの人数は30人以上の場合もあり、教師はクラス別、テキスト別、科目別での講義をすることがよくある。この教師と学生数のアンバランスな比率から、今まで教師の指導を中心に行われている日本語教育には、教師の指導力が不足する問題もあった。特に言語技能（聞く、話す、読む、書く）の養成において、授業内で学生一人あたりのトレーニング回数や教師による訂正と指導などは、30人のクラスでは、15人～20人のクラスより、かなり少ないことは言うまでもない。日本語能力試験1級の合格率を例にすると、98級（98年入学の学生）は64%、99級（99年入学の学生）は40.6%という合格率から、次のことが明らかになった。つまり、中国のほかの大学と同じように、ハルピン師範大学でも日本語教育の質が下降する傾向が現れているということである。どのように教育の成果を上げるかは、教育者・学習者双方を悩ませる問題である。問題解決の鍵として、教師がどのように教えるかということより、学生がどのように学習すればいい成果を達成するかということを検討すべきであると考え、さらに自律的学習や創造的学習、認知分析やコミュニケーション能力の向上を導く指導方法を探るべきであると考えている。そのためには、中国人の日本語学習者に影響する要素は何であるかを、まず明確にしなければならない。

日本語学習に影響を及ぼす要素については、教師も学習者も誰もがいくつか挙げられるが、その中の主要な要素は何なのか、中国人の日本語学習者に影響する要素と日本人が母語として日本語を学習する時に影響する要素とは違いがあるのか、性別・日本語学習歴・ほかの外国語の学習歴が日本語学習に影響を及ぼすのか、などの疑問を抱えていた。過去5年間（2003年まで）に中国で刊行された論文や著作などを調べた結果、中国人の日本語

1 明星大学人文学部 客員教授 ハルピン師範大学外国語学院 助教授

学習に関して参考になる研究はないことが分かった。そこで、ハルピン師範大学日本語学科の学生を対象にして、実証的研究を行った。本稿は中国人学生の日本語学習に影響する重要な因子のみを抽出し、分析を行った。

2. 先行研究

本研究を行うにあたり、研究方法として、中国人向けの英語学習に関する研究（李菡、2002）や、中国人学生の認知的特徴やメタ認知などの研究（胡志海・梁寧建、2002）、母語としての中国語学習に関する研究などを参考にした。日本では、外国語としての日本語学習に影響する因子に関する研究は、「動機付け」（郭俊海、2001）、「母語（中国語）の影響」（馮富栄、1999）など、因子そのものについての研究が多い。確かに、因子一つ一つの作用は無視できないが、しかし、日本語学習に影響を及ぼす要素については、従来の研究では、「主要な要素と認められるのはどれか」、「各要素はどのように日本語学習に影響を及ぼしたのか」は、論じられていない。これらは日本語教育研究に重要な課題だと考えられる。もし、それらが分からなければ、単一の影響要素を研究するのはどれほど意義を持っているのか明確ではない。日本語学習に影響する因子群にはどのような因子があるのか、主要な因子は何なのかなど、因子研究の前提として明確にすべきだと考える。

3. 調査方法

3-1 調査対象

2002年12月から2003年1月にかけて、ハルピン師範大学日本語学科4学年（全部で270人）の学生を対象にして、記述式調査と質問調査を行った。1年生（02年入学）は2ヶ月ぐらいしか日本語を習っていないので、日本語学習や日本語そのものに対する認識が不十分だと考え、記述式調査は2-4年生を対象に行った。記述式調査の回収率は93.53%、質問調査では、回収した調査用紙の有効回答率は92.54%に達した。

表1： 調査対象者の内訳

学年	記述式調査		質問調査		
	配布部数	回収部数	配布部数	回収部数	有効部数
99級(4年)	30	28	25	24	16
00級(3年)	70	62	55	54	51
01級(2年)	70	69	65	65	62
02級(1年)			85	85	82
合計	170	159	230	228	211

3-2 調査内容

3-2-1 記述式調査

2002年12月中旬に行った記述式調査では、「知的要素や非知的要素において、あなたの日本語学習に影響を及ぼす要素を、順序を問わず、できるだけ詳しく書きなさい」と、「思いついた日本語学習能力に関わる言葉をすべて書き出さない」という質問を出した。

この二つの質問に答える時、重複する回答が出る可能性があるが、調査対象からできるだけ全面的なデータを集めるため、大事なデータが書き落とされないように、詳しい回答と簡潔な回答を書かせたのである。また、回答のヒントとして知的要素、非知的要素、能力要素という言葉を示した。

回収した回答は三回にわたってまとめた。一回目は159部の記述用紙に書かれた回答を、内部要素と外部要素に分けてまとめた。たとえば、「先生が優しくて、いつもほめてくれるので、さらに積極的に勉強したい」という回答を外部要素の枠に記入し、「将来、いい就職先を見つけるため」などの回答を内部要素の枠に整理した。二回目は、まとめた回答をさらに整理し、重なった内容を帰納し、特に1回しか現出しない回答を削除した。たとえば、「雨や曇った日には勉強したくない」、「天気が学習に影響する」、「涼しい夏は寒い冬よりもっと勉強が進む」などの回答には、「天気や季節のいい時期には、より学習に集中する」という項目を作成した。また「教室や図書館より、学生寮での勉強が大好き」というような回答は削除した。三回目は、整理された回答に基づき、質問方法に配慮した上、160項目もある調査用紙が作成された。

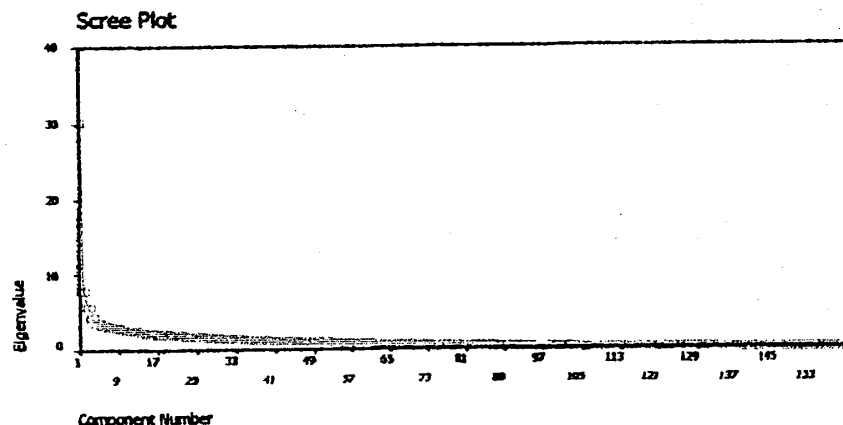
3-2-2 質問調査

2003年1月初旬に「大学生の日本語学習成果に影響する要素について」というテーマで、記述式調査に基づいて作成された160項目の用紙を5段階の尺度法で（1 = 影響レベルが弱いまたは低い、5 = 影響レベルが強いまたは高い）、ハルピン師範大学日本語学科の4学年の学生を対象に質問調査を行った（質問用紙は本稿末尾に添付）。回収された有効回答は211部あり、学年ごとの有効回答率は、4年生7.6%、3年生24.2%、2年生29.4%、1年生38.9%である。確実なデータを集めるため、質問用紙の配布と回収に際して、筆者がクラスごとに回って、当調査について説明した。質問調査から得たデータはSPSS11.0 for Windowsを用い、Pentium IIIで、「因子分析」を行った。

4. 因子の抽出

因子は次の基準で抽出した。1) 固有値が ≥ 1 であること。2) 各因子が少なくとも全体変数の2.99%を説明できること。3) 因子負荷量が0.35以上であること。4) 固有値を現すスクリー・プロット (Scree Plot) を参考にし (図1)、曲線が17因子から次第に緩んでくることを確認する。5) 各因子内の各項目の共同度が.389-.734の間にあること。

図1 「Scree Plot」



因子分析の内容解釈や理論仮説との照合を容易にするため、バリマックス (Varimax) 法回転を行った。因子軸の回転を行う時、160項目211部の調査データが大きすぎて、収束のための最大反復回数を20から100に拡大した。バリマックス回転後の統計量行列により、17因子のすべての因子に対する累積解釈率は51.472%であり、因子分析を行えることが明らかになった。

表2：バリマックス回転後の統計量行列

項目	共同度	因子	特徴値	解釈率	累積解釈率	項目	共同度	因子	特徴値	解釈率	累積解釈率
F1	.480	1	10.122	6.326	6.326	F29	.544	29			
F2	.553	2	8.479	5.299	11.625	F30	.409	30			
F3	.506	3	7.322	4.576	16.202	F31	.508	31			
F4	.533	4	6.461	4.038	20.240	F32	.543	32			
F5	.533	5	5.494	3.434	23.674	F33	.476	33			
F6	.454	6	5.492	3.432	27.106	F34	.477	34			
F7	.454	7	4.662	2.914	30.020	F35	.438	35			
F8	.512	8	4.012	2.507	32.527	F36	.514	36			
F9	.430	9	3.733	2.333	34.861	F37	.512	37			
F10	.637	10	3.625	2.266	37.127	F38	.490	38			
F11	.642	11	3.480	2.175	39.302	F39	.585	39			
F12	.590	12	3.444	2.152	41.454	F40	.474	40			
F13	.585	13	3.437	2.148	43.603	F41	.529	41			
F14	.507	14	3.318	2.074	45.677	F42	.631	42			
F15	.599	15	3.361	1.976	47.625	F43	.551	43			
F16	.525	16	3.118	1.949	49.601	F44	.590	44			
F17	.468	17	2.994	1.871	51.472	F45	.632	45			
F18	.547	18				F46	.598	46			
F19	.577	19				F47	.598	47			
F20	.550	20				F48	.585	48			
F21	.439	21				F49	.558	49			
F22	.502	22				F50	.560	50			
F23	.598	23				F51	.561	51			
F24	.482	24				F52	.482	52			
F25	.514	25				F53	.570	53			
F26	.436	26				F54	.568	54			
F27	.524	27				F55	.640	55			
F28	.462	28				F56	.650	56			

項目	共同度	因子	特徴値	解釈率	累積解釈率	項目	共同度	因子	特徴値	解釈率	累積解釈率
F57	.538	57				F91	.643	91			
F58	.494	58				F92	.502	92			
F59	.533	59				F93	.573	93			
F60	.517	60				F94	.476	94			
F61	.531	61				F95	.555	95			
F62	.499	62				F96	.556	96			
F63	.690	63				F97	.466	97			
F64	.574	64				F98	.619	98			
F65	.578	65				F99	.507	99			
F66	.426	66				F100	.549	100			
F67	.598	67				F101	.472	101			
F68	.605	68				F102	.656	102			
F69	.574	69				F103	.631	103			
F70	.570	70				F104	.551	104			
F71	.581	71				F105	.567	105			
F72	.529	72				F106	.539	106			
F73	.610	73				F107	.588	107			
F74	.649	74				F108	.564	108			
F75	.555	75				F109	.566	109			
F76	.601	76				F110	.606	110			
F77	.608	77				F111	.566	111			
F78	.551	78				F112	.587	112			
F79	.558	79				F113	.527	113			
F80	.464	80				F114	.548	114			
F81	.615	81				F115	.515	115			
F82	.539	82				F116	.389	116			
F83	.522	83				F117	.531	117			
F84	.620	84				F118	.502	118			
F85	.560	85				F119	.532	119			
F86	.522	86				F120	.560	120			
F87	.467	87				F121	.592	121			
F88	.583	88				F122	.540	122			
F89	.607	89				F123	.398	123			
F90	.606	90				F124	.577	124			

項目	共同度	因子	特徴値	解釈率	累積解釈率	項目	共同度	因子	特徴値	解釈率	累積解釈率
F125	.432	125				F143	.663	143			
F126	.656	126				F144	.618	144			
F127	.626	127				F145	.578	145			
F128	.734	128				F146	.488	146			
F129	.624	129				F147	.598	147			
F130	.618	130				F148	.522	148			
F131	.599	131				F149	.537	149			
F132	.511	132				F150	.543	150			
F133	.475	133				F151	.603	151			
F134	.649	134				F152	.543	152			
F135	.598	135				F153	.554	153			
F136	.537	136				F154	.464	154			
F137	.586	137				F155	.427	155			
F138	.629	138				F156	.580	156			
F139	.590	139				F157	.554	157			
F140	.632	140				F158	.540	158			
F141	.573	141				F159	.591	159			
F142	.629	142				F160	.633	160			

5 因子命名と考察

因子分析から出た因子群の大きさによって、次の順序で17因子を配列した。各因子に属する項目に現れた意味に従って、因子命名を行った。

因子1：学校因子

「日本語学科のカリキュラムの設置が合理的なものだ (T141)」、「宿舍、食堂など学校の施設が気に入る (T142)」、「学校、学部には日本語図書資料がたくさんあり、借りやすい (T140)」、「学びたい科目は大学で履修できる (T146)」、「日本に関する情報が大学で早く得られる (T160)」などの項目からなる因子1は、教育シラバスや、大学施設などに関する内容なので、学校因子と命名した。

学校の管理、つまり教育管理、学生管理、カリキュラム管理、教師管理、図書資料の管理などは、学習成果の達成に直接影響している。また、中国では学生は皆大学の学生寮に住んでおり、食堂で食事をするのが普通なので、大学は学習の場所でもあり、生活の空間でもある。学校因子には、教育施設、教育シラバスのほか、住みやすい生活環境作りも含まれている。教育施設と生活施設の両方とも優れている大学が学習者にとって望ましい大学作りであり、日本語学習成果の達成を促進する、と調査によって分かった。

因子2：自立と自律能力

「規則正しい生活をしている (T76)」、「退屈な仕事や学習も長く続けられる (T45)」、

「勉強する時、テレビやインターネットでゲームをするなどの誘惑や邪魔を拒否できる (T44)」、「朝と夜の自習は自主的に続けてやる (T69)」などの項目からなる因子2は、学習者が大学で学習や生活の面で心理的・行動的に独立し、他人との望ましい相互作用・人間関係を保ちながら、自分で立てた規範に従って行動するという自我コントロールに関する内容なので、自立と自律能力と命名した。

中国の大学生はほとんどが一人っ子として育てられてきたので、親を離れた一人暮らしに慣れていない。また、中国の大学生寮は一部屋に4人～8人で一緒に暮らすのが普通で、朝晩同級生と一緒にいる集団生活も初体験なので、親から離れる生活する能力や仲間同士の生活習慣の違いなど、様々な問題に悩んでいる学生もいるようだ。人の邪魔をしない上に、自分なりのペースで規則正しい生活習慣と学習習慣を守ることができるか否か、すなわち学生の自立性と自律性が日本語学習成果の達成に深く関わっていることが分かった。

因子3：言語認知能力

「中国語や英語にはない文法表現 (例えば助詞、助動詞の使い方等) を早く理解する (T18)」、「言語を受け入れる認知度が高い (T71)」、「述語が文末に位置するなど日本語の特徴を早く理解できる (T17)」、「習った言葉や本文などを早く覚えられる (T1)」、などの項目からなる因子3は、言語に対する理解力や記憶力などに関する内容なので、言語認知能力と命名した。

回答の分析により、学生の言語認知能力が日本語学習に大きな影響を与えると認められた。言語認知能力とは学習者が日本語の言語特性を取り入れ、頭の中でこれらの知識を変換したり、意味をつけたり、記憶したりする能力を指す。この能力には個人差があるが、知識の学習をすればするほど、上達することができる。

因子4：教師因子

因子4は、「担当の先生は教授法が上手で、自分にはふさわしい (T128)」、「日本語の授業では、知的な内容が多く、情報がたくさん入っている (T138)」、「担当の先生はやさしいし、人柄がよくて、みんなに尊敬される (T129)」、「担当の先生は日本語に関する知識が豊富で、発音が正しい (T127)」、「先生は日本語教育や教育研究に全力で取り組んでいることが分かる。(T137)」など、日本語教師の人柄や教育技法、備えている日本語知識、能力に関する内容なので、教師因子と命名した。

教師は教育シラバスの直接の執行者であり、テキストや教育指導要領に決められた目標を達成するため、具体的に指導を行う責任を担っている。中国では教育現場で教師の役割がとりわけ重要であることは、大多数の学者の一致した見解であり、中国における日本語教育の特徴の一つでもある。しかし、回答から、学習者の教師への期待は、教師の日本語能力や教育能力だけでなく、教育者の人格的魅力や研究能力にまで及ぶことが明らかになった。今までのように講義を行うだけですんだ教育者はもう学生に認められないことから、教師の研究能力などの養成に対する学生の要望が以前より強くなったことが示されている。

因子5：個性

「みんなの前であまり緊張しない (T48)」、「中国語や外国語で話すとき、早口で話せる (T13)」、「自分は同級生より頭がよく、反応が早いと思う (T15)」、「明るくて、人とのコミュニケーションが上手だ (T46)」などの項目からなる因子5は、個人を他者から区別している個人の独特な性質、つまり性格特性や、情緒、知能、動作などが含まれているパーソナリティなので、個性と命名した。

コミュニケーションを目的に行う言葉学習は、学習成果の達成に促進すると考えられる。調査によると、内向的性格の学生は、あまり積極的に日本語で話せない。そのため、いつも明るくて積極的に行動する学習者に比べて、言語実践への勇気や自信を欠き、積極的に日本語でコミュニケーションする意欲や行動も足りない部分がある。内向的な性格が学習成果の達成に影響していることに学習者自身も気づいていることが、明らかになった。

因子6：学習意欲

「何をしても、うまくやり、中途半端にしない (T56)」、「失敗は一時だけのことで、自分は絶対成功できると思う (T55)」、「難題があったら、資料を調べて解決する。人に答えを教えてもらっても、もう一度資料などで確認する (T54)」、「学習において独立性が強く、あまりに人に頼らない (T72)」などの項目で構成した因子6は、学習目標に向かう行動を生じさせ、成功を勝ち得るための努力をさせる精神的な力や意志活動への積極的な構えなどに関する内容なので、学習意欲と命名した。

中国では、高校や中学校で行う学習は、課内でも課外でも、教師の指導との関わりが密接である。これに対して、大学では、教師の指導は課内でのみ行い、課外での学習は学習者の独学能力と学習意欲によって行い、特に疑問の生成や難問を探るなど、学問への探索心と能力は、学習成果の達成に深く繋がっている。いつも中途半端で、教師の命令や要求に従って学習するだけでは、知識の増加や能力の発達にとって不十分であると学生が考えていることが分かった。つまり、学習意欲に燃えて学習したい学生像が現れたと考えられる。

因子7：興味と言語生理機能

因子7の項目は二つの内容からなるもので、その一つは「人と日本語でのコミュニケーションを楽しみ、満足する (T29)」、「日本語あるいは日本に関わる分野でのエリートに憧れ、自分もそんな人になりたい (T37)」、「知らないことが分かるようになったという楽しさを味わいたい (T34)」、「いい就職先を見つけるために、日本語を勉強している (T20)」など、学習の動機に関わり、個人にとって日本語学習の意味や価値があると感じる内容である。もう一つは「聴覚器官は発音弁別困難、難聴などの障害がない (T82)」、「発音器官(口、鼻、舌など)は生理的な障害がない (T81)」など、発音や視聴覚など言語の生理機能である。興味は個人の持つ欲求や能力と密接な関係を持ったため、因子7を興味と言語の生理機能と命名した。

教育心理の研究によると、興味も動機付けの要素であり、学習目標を目指す行動を導く内的原動力である。興味がなければ学習が進まないという自覚を、大学生が持っていることがわかった。中国では外国語学部に進学したい人は、入試で面接を受けなければならない。たとえば発音ははっきりしているかなど、言語学習の生理的条件を調べる項目がある。日本語学習に興味があっても、日本語学科に入れない場合もある。それゆえ、因子分析より、興味と言語の生理的機能は同じ因子としてまとめられたからである。

因子8：心理的コーディネーション能力

「つらいことは早く忘れられる (T40)」、「人の忠告やアドバイスなどをよく受け入れる (T41)」、「自画自賛でも自分をほめることを通じて勉強の励みになる (T102)」、「日本語で話す時、意識的に日本人の表情や身振り、口ぶりなどをまねて話す (T98)」などで構成された因子8は、日本語学習に合うように自分の心的構造を調節する能力なので、心理的コーディネーション能力と命名した。

大学生は学生から社会人になる人生の移行期におり、心理的な面では未熟な特徴も持っていると考えられる。また、試験の圧力、教師や同級生とのトラブルなど焦慮もたびたびある。しかし、学習が順調に進むためには、落ち着いた心境や情緒が前提である。中国では、個人の悩みや心理的問題を解決するために、カウンセリングの専門家に援助を求めることはまだ少なく、一般には自分で心理的調節をするほかないと考えられている。そのため、日本語学習の成果を達成するには、心理的コーディネーション能力がとても重要であると分かった。

因子9：学習方策

「講義を受けるより、独学のほうがもっと役立つと思う (T88)」、「長期、短期の学習目標がはっきり分かる。(T83)」、「長期、短期の学習計画を立てている (T84)」、「日本語学習のいい方法をよく同級生や先生と話し合う (T103)」、「カードや実物想像などの方法で言葉を覚える (T107)」という項目で構成された因子9は、記憶、学習、問題解決、情報探索と受容及び利用の様式のことであり、覚え方、反応の仕方などに反映される内容なので、学習方策と命名した。

学習方策の選択が学習成果の達成に影響することは言うまでもない。しかし、中国では、ほとんどの学生は大学に入学してから日本語を勉強し始めるので、日本語の文法や表現、特に日本文化に関する知識はゼロといっても過言ではない。そのため、学生はどのように勉強すればよいのか、困ることがよくある。調査の回答から、学習方策が学生に重視されていることが明らかになった。

因子10：言語学習の資質

「好きな歌を習う時、音楽の節、拍子などのニュアンスが早く把握できる (T11)」、「中国の歌でも外国の歌でも、早く歌のメロディーが歌える (T10)」、「母語や外国語の発音がはっきりし、流暢である。(T12)」などは、言葉や歌などを聞き取るとか、音への記憶とか、発音などといった言語学習における生理的能力であり、言語学習の資質と命名した。外国語教育心理学の研究によると、資質は外国語学習に影響を及ぼす決定的な要素ではない。しかし、仮に同じ条件で言語能力の発展が他人より遅い人は言語学習の資質に欠ける可能性が高い(朱純、2000)。やる気は資質よりさらに重要な要素であり、優れている資質を持っていても、頑張らなければいい学習成果を達成しがたいと考えられる。ここでは、日本語の言語の資質とは、日本語のアクセントやイントネーション及び発音などを正しく聞き取ったり真似たりする能力を指す。大学生の学習成果の獲得は努力ではなく資質によるという考えは、ある意味で、学習そのものに対する認識の欠落を表していると考えられる。

因子11：学習態度

「試験を受ける時油断して減点されることがない (T94)」、「不案内な場所にも早く慣れる (T47)」、「細かいことをする時、根気が続く (T62)」などの項目からなる因子11は、学習者の学習しようとする心構えや自ら進んで学習しようとする学習意欲、積極性、計画性、実行性などによって測定され、個人の学習行動の方向づけを行う傾向性があるので、学習態度と命名した。

学習態度は性格と関連しながら、経験、学習によって形成され、体制化された構造を持つ(辰野ほか、2001)。学生は真面目に、慎み深く、辛抱強く、粘り強く頑張っていて続けて学習すればいい学習成果を達成することに繋がると認識していることが、明らかになった。

因子12：功利的動機

「日本語を習うのは気のある夫（妻）を見つけるためだ（T22）」、「親あるいは家族に勧められて、日本語を習っている（T23）」、「日本語を習うのは、日本で留学や就職をしようと思っているためだ（T21）」、「日本にいる親戚や友人の影響を受けて、日本語の勉強に興味を湧いた（T27）」からなる因子12は因子7と同じく内的動機に属するが、人生観や理想と内的繋がりがあれば差異もある。自分の利益になるかどうかを先ず考える個人的学習目的が現れた項目の集まりで、功利的動機と命名した。

功利性動機はある意味で学習成果の達成に役立ち、学習の原動力にもなると考えられる。大学生はこのようなさまざまな目的を持って、日本語を勉強していることがわかった。

因子13：被受容度

「親は自分にやさしくて、人格の面で尊敬している（T126）」、「日本語学習を通じて、自分の能力が認められる（T19）」、「先生が自分の意見などを受け入れてくれる（T135）」などの項目は、学生が親、教師及び周りの人々に、学習の面でも人格の面でもどれほど認められるのかという学生の外的評価に関わる内容で、被受容度と命名した。

大学生の立場から見れば、被受容度が高ければ、学習を進める自信が湧き出し、学習の原動力にもなり、学習成果の達成に役立つと考えられる。しかし、中国の大学生は一人っ子として育てられた者が多く、いつも小皇帝のように親や周りに甘やかされて、大学入試に合格すれば、自己評価も回りの評価も高い反面、逆に自惚れが目立つのではないかと考えられる。つまり、適度に挫折を体験させれば、ある意味で学習の推進力になるかもしれないと考えられる。しかし、それには学生の人格を尊重し、教師や親による評価が評価対象である学生によって受け入れられることが前提であると、当調査で明らかになった。

因子14：観察力

「当用漢字を覚える時、中国語の漢字との違いに注意する（T5）」、「裸眼視力または矯正視力が0.1以上である（T80）」などの項目で構成された因子14は、日本語と中国語の違いを弁別する力や目の機能に及ぶもので、観察力と命名した。

観察力を主な因子として抽出することにより、中国の大学生は中国語と日本語の共通点より、差異の方により注意していることが分かった。つまり、観察によって、日本語知識や日本語表現などの特徴を把握することは、日本語学習の成果を達成するのに役立つと考えられる。

因子15：コミュニケーション能力

「講義を受けるほか、テレビドラマやインターネットなどを利用して、勉強できる（T92）」、「家庭教師やアルバイトをするのは、社会勉強のためだ（T123）」、「言い方が分からない日本語は、いつも積極的に手振りなどで意思を伝える（T70）」、「日本語で人とコミュニケーションする意欲が強い（T64）」などの項目で構成された因子15は、積極的に日本語でコミュニケーションする意識や能力からなる項目の集まりで、コミュニケーション能力と命名した。

日本語学習は知識の学習だけでなく、日本語でコミュニケーションを行うのが目的と考えられる。調査により、中国の大学生は次のように考えていることが明らかになった。1. 言語理解より発話をより重視している。2. 単語や文法を暗記する学習方法は、試験向けの学習だけでよい成績を取る可能性がある。3. 外国語の学習は繰り返してトレーニングを行い、普段コミュニケーション能力を高めようとする意識を持って練習すれば上達する。

因子16：言語学習の社会的環境づくり

「日本は経済の面で世界的に重要な国だと思う (T118)」、「中日両国は今後十年、二十年も友好関係が続くと思う (T117)」、「中日両国の文化はつながっていて、交流も盛んで、お互いに理解しやすい (T120)」、「インターネットやテレビなどマスコミを通じて、日本に関する情報を手に入れる (T119)」からなる因子16は、学習の外的動機に属し、中日両国の関係や中国での日本語人材のニーズなどに及ぶもので、言語学習の社会的環境づくりと命名した。

日本語人材に対する社会的ニーズが学習者の動機づけの外的要素である(郭俊海、2001)。大学生は、このような社会的ニーズに応ずるために、日本語教育用のネットワークやマルチメディアの開発、日本製ドラマの輸入などにより、日本語学習のよい外的環境を作りたいと願っていることが、明らかになった。

因子17：学習の心構え

「宿題の勉強をするだけでなく、何を習うべきかをいつもはっきりさせて、目標を目指して勉強する (T93)」、「予習と復習をいつも計画的に行う (T106)」などの項目は、学習者の学習法の差異によって生じた反応傾向つまり、日本語を学習する心構えであるので、学習の心構えと命名した。

現在、中国では日本語学科の90%以上の学生が、日本語を学習する前に、母語のほか英語やロシア語などの外国語を学習した経験を持っている。学生は、このような言語学習経験を生かし、日本語の勉強を促進したいと考えている。しかし、高校での外国語学習と大学での専攻としての日本語学習とは、学力の到達度などが異なる点を重視し、大学での学習に適応する心構えをするため、常に自分の学習をコントロールし、コーディネートすべきではないかと、筆者は考えている。

6. 結論

- (1) ハルピン師範大学日本語学科の学生を対象に行った記述式調査と質問調査により、日本語学習に影響を及ぼす要素として、学校因子、自立と自律能力、言語認知能力、教師因子、個性、学習意欲、興味と言語生理機能、心理的コーディネーション能力、学習方策、言語学習の資質、学習態度、功利的動機、被受容度、観察力、コミュニケーション能力、言語学習の社会的環境づくり、学習の心構えといった17の因子を抽出した。
- (2) 各因子に対する考察により、上述の17因子には、中国における日本語教育の現状、一人っ子政策、中日両国の国内事情など、母語としての日本語学習や日本で日本語を学習している中国人には見られない独特な性質があることが、明らかになった。
- (3) 上述の実証研究を通して明らかになった中国の大学生の日本語学習に影響する主要な要素は、今後各影響要素に対して具体的な分析を行なう時、理論的な根拠となると考えられる。
- (4) 今後は、「中国人の日本語学習者に影響する要素と、日本人が母語として日本語を学習する時に影響する要素との違い」や「性別・日本語学習歴・他言語の学習歴と、上述の17因子との相関分析」などの研究を行うことが可能である。
- (5) 中国の大学生の日本語学習の実態を把握し、中国における日本語教育に次のような助言をすることができる。

教育管理面では、学習者の要望や日本語人材に対する社会的ニーズに応じるため、よ

り充実な教育施設と生活環境を整え、教師に対して専門知識だけでなく、教育技法や人格面などの養成にも力を入れ、カリキュラム検討や教科書開発などの支援を、重視するのである。

教師としては、日本語の知識だけでなく、日本の社会・文化、言語学理論、日本語教育法、異文化コミュニケーションなど、日本語学習に深く関わっている知識も修得しなければならない。また、教師は学生の見本であり、つねに精神修養に努めなければならない。大学教師として、研究能力を備えることも必要である。

大学生としては、自分自身の心と行動に対するモニタリングやコントロールが重要である。自分にふさわしい日本語学習法を見つけ、コーディネートし、いつも前向きな態度で、積極的に努力すれば、いい学習成果を果たせるであろう。

- (6) 当研究は「日本における外国人向けの日本語教育の一研究方法」及び「中国における日本語教育の参考になる結論」として認めてもらうことをも目指している。

参考文献

1. 顧明遠, 教育大辞典, 上海教育出版社, 1998.
2. 心理学百科全・第1巻・第2巻, 浙江教育出版社, 1994.
3. 辰野千寿ほか(編), 多項目教育心理学辞典, 教育出版, 2001.
4. 朱智賢, 心理学大辞典, 北京師範大学出版社, 1991.
5. 呉沁, 学習学概論, 東北師範大学出版社, 2000.
6. 施良方, 学習論, 人民教育出版社, 2001.
7. 程正方(編著), 現代管理心理学, 北京師範大学出版社, 2001.
8. 申亜権・張守臣, 教育測量学, 哈尔滨出版社, 1996.
9. 朱純(編著), 外国語教学心理学, 上海外国語教育出版社, 2000.
10. 楊治良・蔡華俊, 対大学生創造性内隠観的調査研究, 心理科学, 2001, 第24巻第6期P641.
11. 胡志海・梁寧建, 大学生元認知特点与非智力因素關係的研究, 心理科学, 2002, 第25巻第4期P435.
12. 李茵, 単項目英語能力対総体英語水平的影響, 中国大学教育, 2002, 第6期P38.
13. 郭俊海, シンガポール華人大学生の日本語学習の動機付けについて, 日本語教育, 2001, 110号P130.
14. 馮富栄, 日本語学習における母語の影響—中国人を対象として, 日本風間書房, 1999.

大学生の日本語学習成果の達成に影響する要素についての調 査 用 紙

1. 習った言葉や本文などを早く覚えられる。
2. 以前習った本文などをはっきり覚えている。
3. 文章を読む時、分からない言葉は文脈から意味を取る。
4. 分かる言葉によって、分からない言葉の意味を推測する（例えば英語で日本語の外来語の意味を推測するなど）。
5. 当用漢字を覚える時、中国語の漢字との違いに注意する。
6. 絵やイメージ表像などによって言葉や文を記憶する。
7. 言葉のリズムや発音の特徴によって新しい言葉を覚える。
8. 先生の講義が早く分かる。
9. 異文化の受容力が強い。
10. 中国の歌でも外国の歌でも、早く歌のメロディーが歌える。
11. 好きな歌を習う時、音楽の節、拍子などのニュアンスが早く把握できる。
12. 母語や外国語の発音をはっきりし、流暢である。
13. 中国語や外国語で話すとき、早口で話せる。
14. 各音素、音位を正しく発音できる。
15. 自分は同級生より頭がよく、反応が早いと思う。
16. 同時にいくつかの物事に気を配る。
17. 述語が文末に位置するなど日本語の特徴を早く理解できる。
18. 中国語や英語にはない文法表現（例えば助詞、助動詞の使い方等）を早く理解する。
19. 日本語学習を通じて、自分の能力が認められる。
20. いい就職先を見つけるために、日本語を勉強している。
21. 日本語を習うのは、日本で留学や就職をしようと思っているためだ。
22. 日本語を習うのは気のあう夫（妻）を見つけるためだ。
23. 親あるいは家族に勧められて、日本語を習っている。
24. 日本語が好きだから勉強している。
25. 大学での恋は日本語学習にいい役割を果たした。
26. 日本語の先生は素敵な人で、先生が大好きで、日本語の勉強が興味深くなる。
27. 日本にいる親戚や友人の影響を受けて、日本語の勉強に興味を湧いた。

28. 同級生の日本語の成績が気になる。
29. 人と日本語でのコミュニケーションを楽しみ、満足する。
30. しみじみとして、繊細で美しい文章を読むのが大好きだ。
31. 自分の日本語レベルは周りに高く評価され、学習の推進力になった。
32. 先生は自分の語学的資質や学習成績を高く評価した。
33. 天気や季節のいい時期には、より学習に集中する。
34. 知らないことが分かるようになったという楽しさを味わいたい。
35. 日本語版の小説を読むことや、日本の映画やドラマを見るのは楽しいことだと思う。
36. インターネットでよく日本や日本語に関することを調べる。
37. 日本語あるいは日本に関わる分野でのエリートに憧れ、自分もそんな人になりたい。
38. 親の期待を無にしないよう、頑張って勉強している。
39. 毎日朗読やヒヤリングの練習を続ける。
40. つらいことは早く忘れられる。
41. 人の忠告やアドバイスなどをよく受け入れる。
42. 宿題などをする時、人より早く出来上がる。
43. まじめで、慎重な態度で日本語を学習している。
44. 勉強する時、テレビやインターネットでゲームをするなどの誘惑や邪魔を拒否できる。
45. 退屈な仕事や学習も長く続けられる。
46. 明るくて、人とのコミュニケーションが上手だ。
47. 不案内な場所にも早く慣れる。
48. みんなの前であまり緊張しない。
49. 難題を解決するため、八方手を尽くし、容易にあきらめしない。
50. 熱心にいろいろなイベント（スポーツなど）に参加する。
51. 腹が立つことがあっても、学習に影響させないように怒りを抑えられる。
52. 既定目標をぜひ達成しようという決意を持っている。
53. 授業中よく質問に答える。
54. 難題があったら、資料を調べて解決する。人に答えを教えてもらっても、もう一度資料などで確認する。
55. 失敗は一時だけのことで、自分は絶対成功できると思う。

56. 何をしてもうまくやり、中途半端にしない。
57. 勉強する時いつも元気いっぱい、集中力が高い。
58. つまらないことでいらいらしない。
59. 日本語で話すとき、間違っ笑われても平気で、よくトレーニングをする。
60. 学習計画によって勉強する。
61. 試験や宿題などがなくても、まじめに勉強できる。
62. 細かいことをする時、根気が続く。
63. 日本語で日記をつける。
64. 日本語で人とコミュニケーションする意欲が強い。
65. 日本人の友人や日本語学習の仲間が何人もおり、彼らと付き合ううちに、日本語を勉強する。
66. 日本語の文章を読むとき、分からない内容をいつも辞書などで分かるまで調べる。
67. 人に聞くのは恥ずかしいと思う。
68. 日本語を勉強し始め、部屋の装飾や服装などが日本風になった。
69. 朝と夜の自習は自主的に続けてやる。
70. 言い方が分からない日本語は、いつも積極的に手振りなどで意思を伝える。
71. 言語を受け入れる認知度が高い。
72. 学習において独立性が強く、あまりに人に頼らない。
73. 興味のある物事は長く続けていく。
74. 学習において、絶えずより高い目標を作る。
75. 疲れた時、少し休むとすぐ元気が戻り、勉強が続けられる。
76. 規則正しい生活をしている。
77. よく眠れる。朝起きるといつも元気が戻る。
78. 栄養十分な食事をしている。
79. 体を鍛え、病を防ぐ意識が強く、よく運動する。
80. 裸眼視力または矯正視力が0.1以上である。
81. 発音器官（口、鼻、舌など）は生理的な障害がない。
82. 聴覚器官は発音弁別困難、難聴などの障害がない。
83. 長期、短期の学習目標がはっきり分かる。
84. 長期、短期の学習計画を立てている。

85. 難点や重点などに対する判断や、把握などが得意だ。
86. 読書する時、途中で読んだ内容を考えたり、味わったりする。
87. 読書するとき、二重線などのマークをつけて、ポイントをより強調する。
88. 講義を受けるより、独学のほうがもっと役立つと思う。
89. 勉強する時、よく質問をする。
90. 本を読む時、その本の主旨、構造を把握するため、いつも前書き、目次から読む。
91. 受験勉強のしかたが上手で、いつもいい成績を得る。
92. 講義を受けるほか、テレビドラマやインターネットなどを利用して、勉強できる。
93. 宿題の勉強をするだけでなく、何を習うべきかをいつもはっきりさせて、目標を目指して勉強する。
94. 試験を受ける時、油断して減点されることがない。
95. ディスカッション式学習が好きで、興味深い勉強ができる。
96. 参考書、辞書などをうまく使うことができる。
97. 声を出して読み、繰り返し聞いて聞くことから、言葉の勉強を始める。
98. 日本語で話す時、意識的に日本人の表情や身振り、口ぶりなどをまねて話す。
99. 段階的に日本語の語彙や文法の使い方をまとめる。
100. よく余暇時間を利用して、学習する。
101. この間の日本語学習はどうだろうなどと、よく反省する。
102. 自画自賛でも自分をほめることを通じて勉強の励みになる。
103. 日本語学習のいい方法をよく同級生や先生と話し合う。
104. 日本語学習の方法をよく考える。
105. 人の言う日本語をまじめに聞き、分からない時は尋ねる。
106. 予習と復習をいつも計画的に行う。
107. カードや実物想像などの方法で言葉を覚える。
108. 翻訳で読んで、聞いた内容に対する理解を深める。
109. 談話中やドラマを見る時、話の流れや日本語での言い方などを予測して考える。
110. 教室でも宿舍でも、できるだけ日本語で話す。
111. 一つの事から類推して多くのことを知る能力を持つ。
112. 現代中国語や古代中国語など言語学についての理論的知識を身につけている。
113. 母語での表現力が強く、頭の反応が迅速である。

- 1 1 4. 人文科学や社会科学に関する知識の学習に大いに興味がある。
- 1 1 5. 自然科学の学習に大いに興味がある。
- 1 1 6. 社会では、日本語を身につけた人材に対するニーズが大きいと思う。
- 1 1 7. 中日両国は今後十年、二十年も友好関係が続くと思う。
- 1 1 8. 日本は経済の面で世界的に重要な国だと思う。
- 1 1 9. インターネットやテレビなどマスコミを通じて、日本に関する情報を手に入れる。
- 1 2 0. 中日両国の文化はつながっていて、交流も盛んで、お互いに理解しやすい。
- 1 2 1. 卒業後、日本語に関わる仕事に就く可能性がある。
- 1 2 2. 豊かな生活をしていて、学費や食費など経済面での心配はない。
- 1 2 3. 家庭教師やアルバイトをするのは、社会勉強のためである。
- 1 2 4. 大学での勉強は簡単なので、時間を潰すためアルバイトをする(した)。
- 1 2 5. 親は自分がアルバイトをするのに反対しない。
- 1 2 6. 親は自分にやさしくて、人格の面で尊敬している。
- 1 2 7. 担当の先生は日本語に関する知識が豊富で、発音が正しい。
- 1 2 8. 担当の先生は教授法が上手で、自分にはふさわしい。
- 1 2 9. 担当の先生はやさしいし、人柄がよいので、みんなに尊敬される。
- 1 3 0. 担当の先生は素敵な人で、先生らしい。
- 1 3 1. 担当の先生は学生(あなた本人)に関心を寄せている。
- 1 3 2. 担当の先生はいつも学生(あなた本人)を励ます。
- 1 3 3. 今の成績や態度などについて、先生から高く評判された。
- 1 3 4. 先生は日本語の知識だけではなく、学習方法も教えてくれる。
- 1 3 5. 先生は自分の意見などを受け入れてくれる。
- 1 3 6. 困った時や悩んだ時、先生は相談に乗ってくれる。
- 1 3 7. 先生は日本語教育や教育研究に全力で取り組んでいることが分かる。
- 1 3 8. 日本語の授業では、知的な内容が多く、情報がたくさん入っている。
- 1 3 9. 今使っているのテキストは、実用性や知識量の面などでいいものだと思う。
- 1 4 0. 大学や日本語学科には日本語図書資料がたくさんあり、借りやすい。
- 1 4 1. 日本語学科のカリキュラムは合理的である。
- 1 4 2. 宿舎、食堂など学校の施設が気に入っている。
- 1 4 3. 教室や図書館は静かであり、学習にいい所だと思う。

144. 大学のL1教室やマルチメディア教室など教育施設が完備している。
145. 日本語学科や大学では日本語学習にかかわるイベントがよくある。
146. 学びたい科目は大学で履修できる。
147. 各学科の教師配置に満足している。
148. 奨学金などの選考は公平だと思う。
149. 授業中、教師は授業に対するコントロールを重視している。
150. 必要な日本語に関する書籍（参考書、辞書なども含む）は書店などで買える。
151. クラスのみんなは向学心が強く、学習の雰囲気が良い。
152. 大学での試験や成績判定などは公平だと思う。
153. 同級生と仲が良く、学校内でのトラブルが勉強に影響することはない。
154. まじめで成績のいい同級生と、一緒によく勉強する。
155. 学校、教師とも学習成績を重視している。
156. 教室は明るく、冬も暖かくて、勉強にいい所だ。
157. 教室では好きな場所に座って勉強することができる。
158. 日本語学科の講義時間数は合理的で、教育規則に則っている。
159. 授業中、言語技能のトレーニングは十分だと思う。
160. 日本に関する情報は大学で早く得られる。